



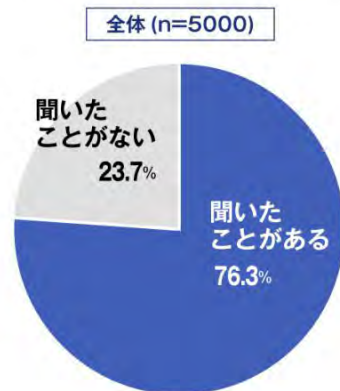
慶應義塾大学SFC研究所  
X.SDG Lab.



# 折り返し点を迎えたSDGsと これからの変革へ向けて

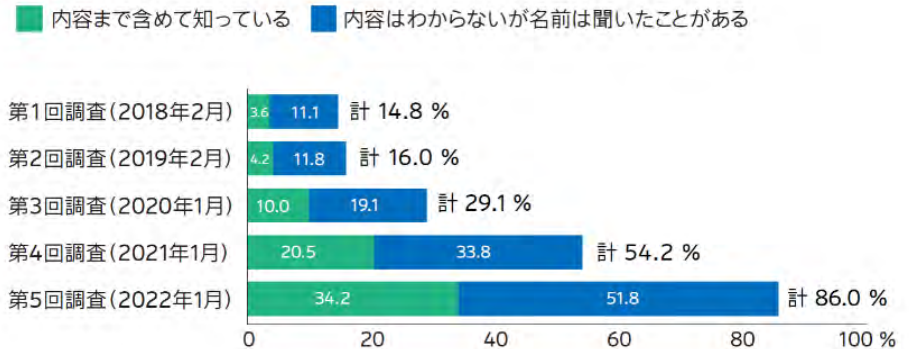
慶應義塾大学大学院教授  
蟹江憲史

あなたは「SDGs」という言葉を聞いたことがありますか

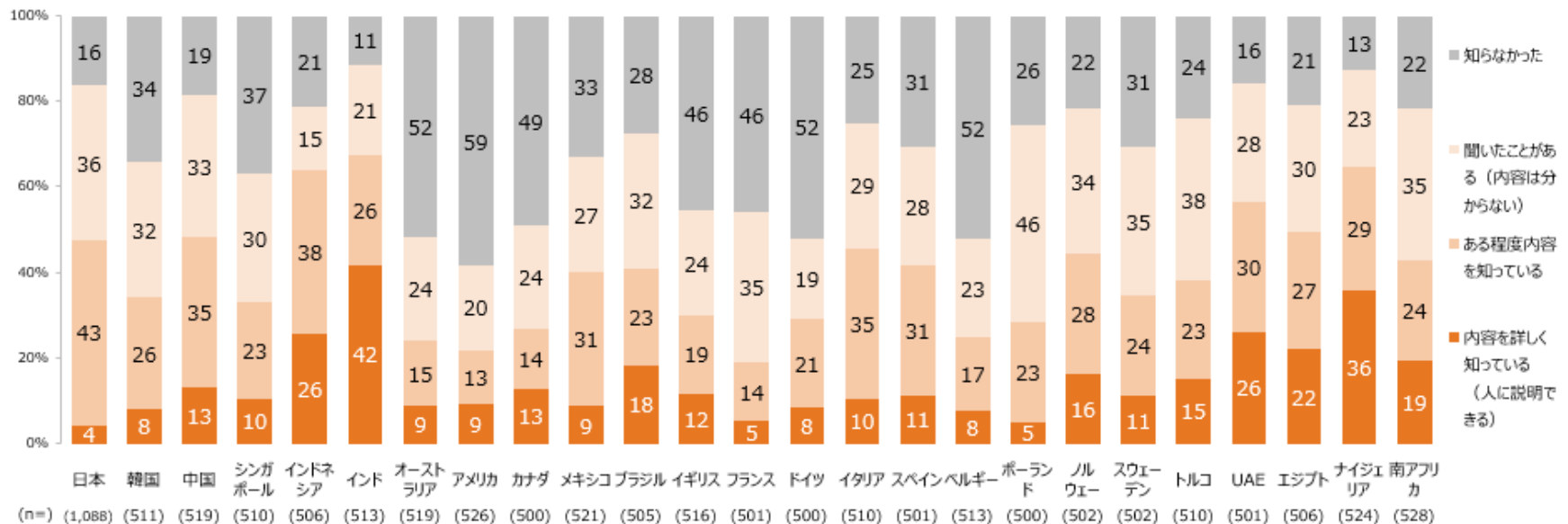


朝日新聞第8回認知度調査より（2021年12月実施）

図表1：SDGsの認知率（時系列）



電通第5回「SDGsに関する生活者調査」（2022年1月実施）



公益財団法人旭硝子財団「生活者の環境危機意識調査」（日本と海外24か国で実施、2022年）

- 日本のSDGs認知度は最高レベル
- 日本においてSDGsの内容を知っている割合は最低レベル

# SDGs – 持続可能な開発目標 ～ 2030年の世界の姿 ～

2030年への  
世界目標

17目標  
169ターゲット  
231（247）指標

全ての国・企業  
等の主体に普遍的に適用



進捗レビュー  
(法的義務なし)



世界の変革

だれ一人取り残  
されない

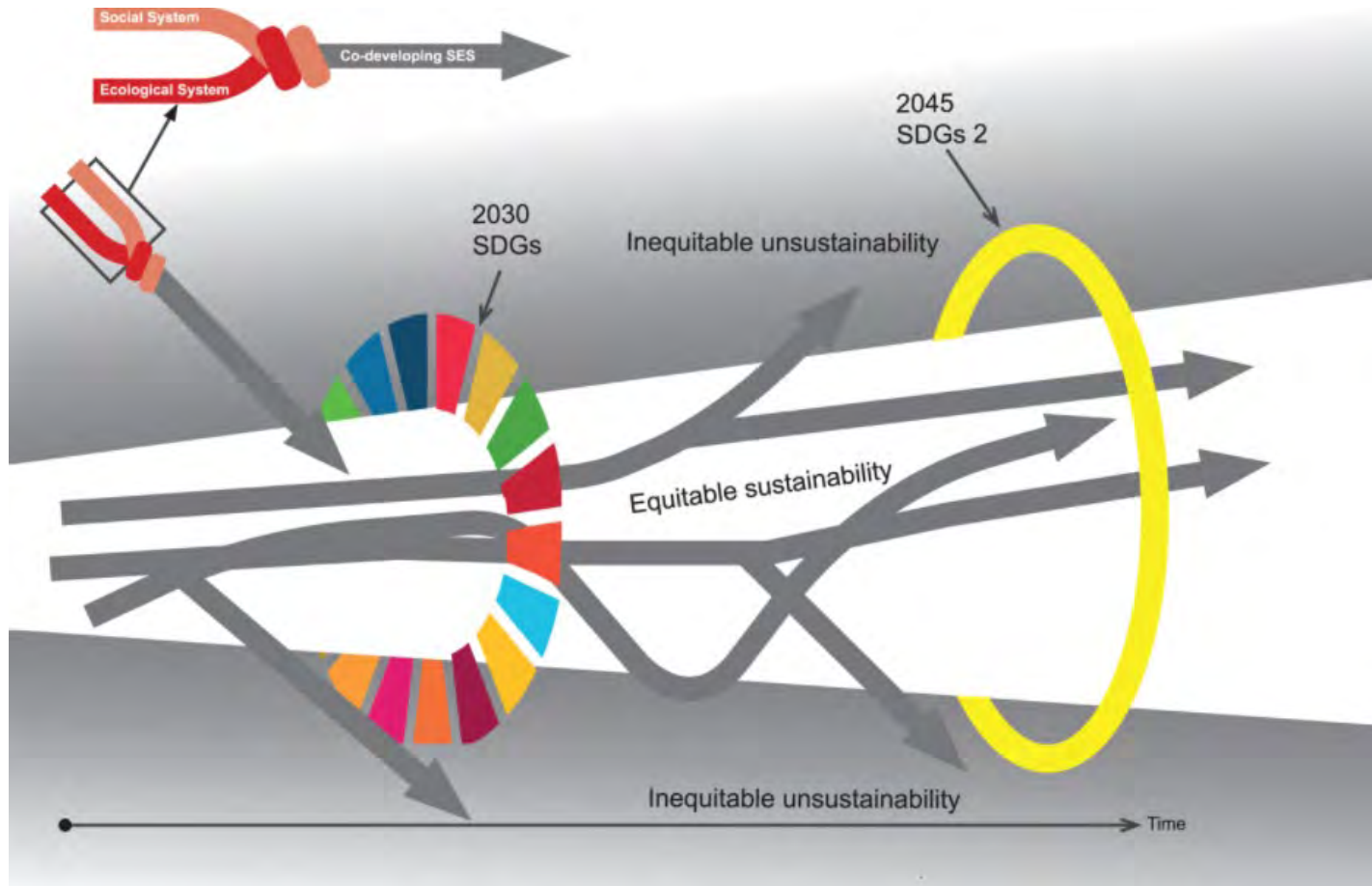


# SDGs = 2030年の先の世界の常識



1. 2030アジェンダのタイトル「我々の社会を変革する（Transforming Our World）」
  - コロナ禍は変革へのラストチャンス
  - 企業活動もパラダイム・価値観を大きく変える必要がある
2. 「目標ベースのガバナンス（governance through goals）」
  - 野心レベルの提示からスタート／国連でルールを決めない  
→ イノベーション → サステナビリティの標準化へ
3. 進捗の評価・レビューが唯一のメカニズム
  - 指標＋4年に1度の「グローバル持続可能な開発報告書（GSDR）」による評価報告
  - DXとの親和性大→計測
  - 投資家や日経なども評価→SDGsへの対応如何が投資先を決めることに
4. 総合的目標：17目標は一体で不可分
  - Coherent Action

# その先の世界を可能にするための 道しるべ

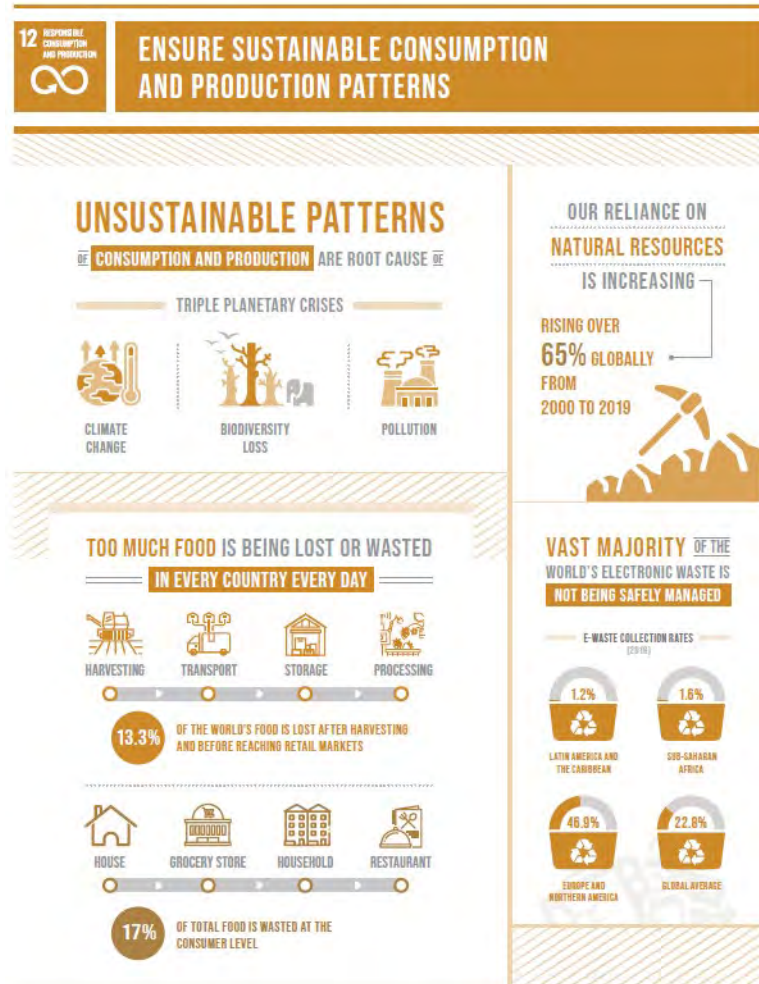
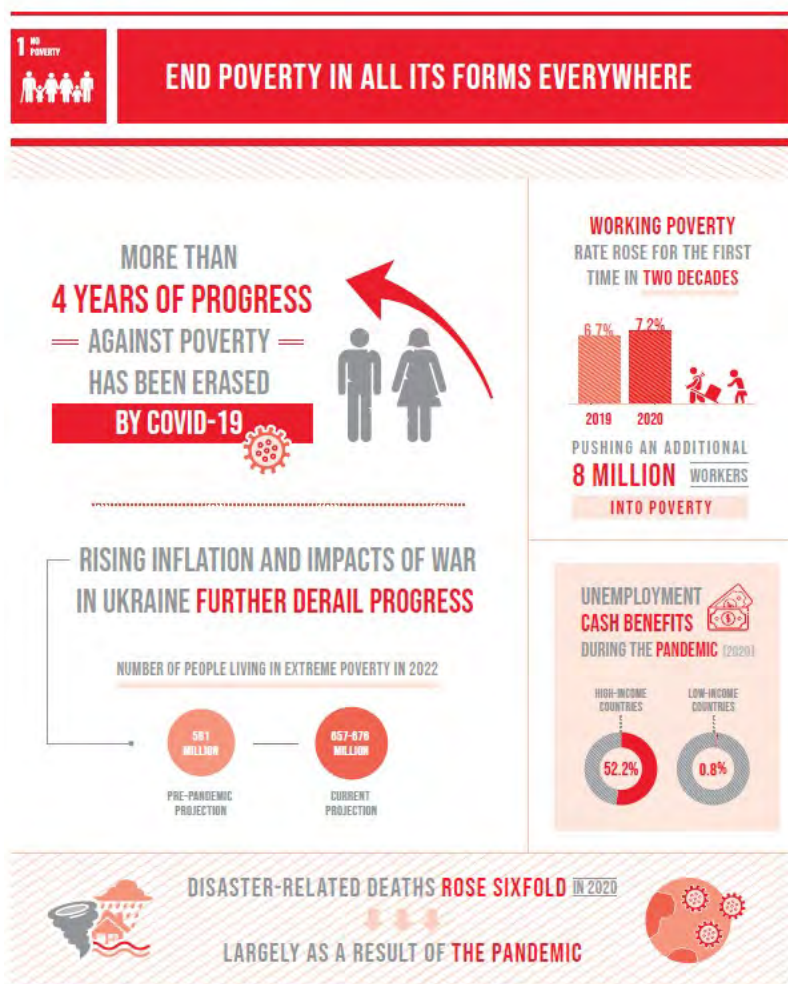


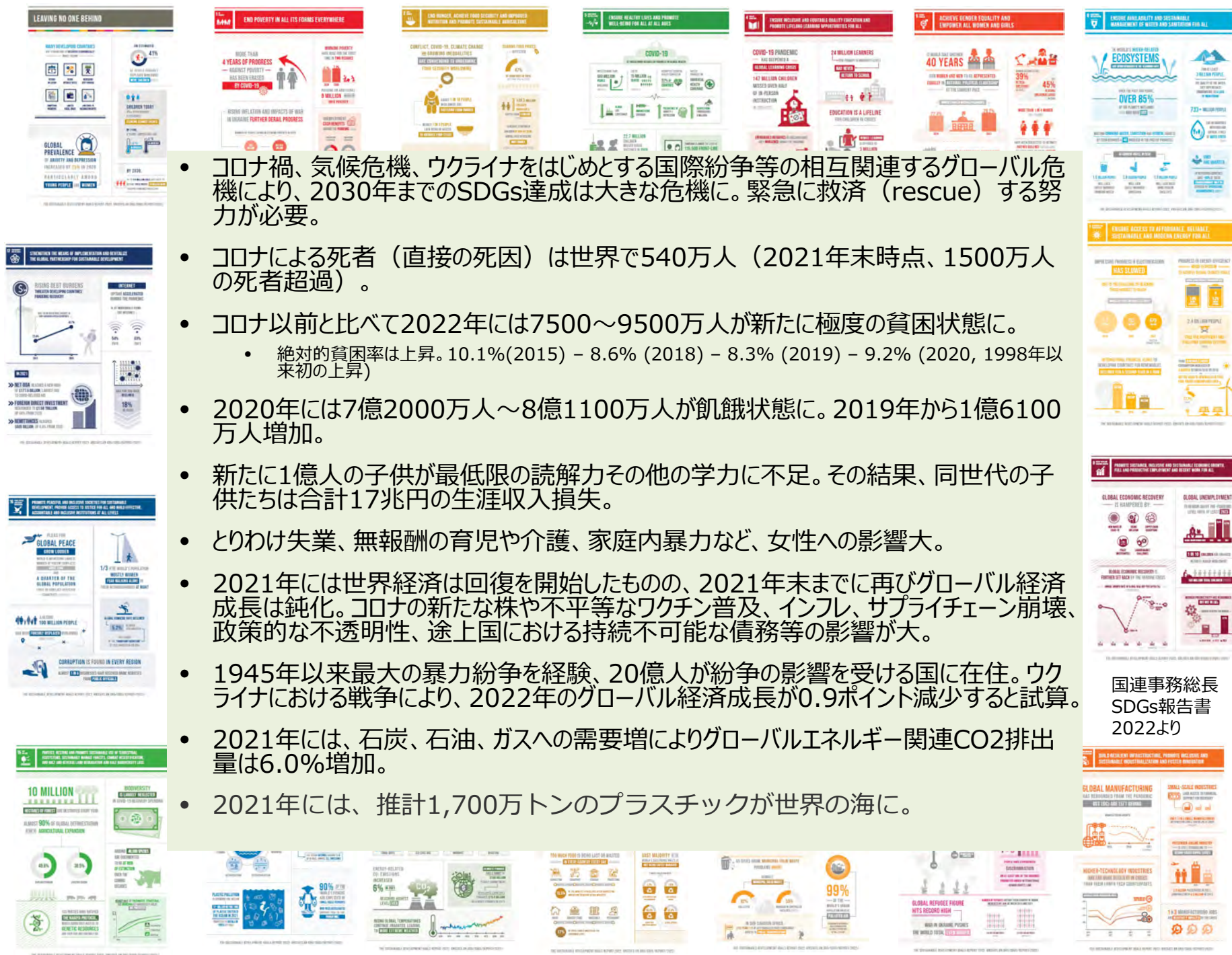
# SDGsを巡る現状



# Sustainable Development Goals Report

## • グローバル指標に基づく世界全体の進捗評価





- コロナ禍、気候危機、ウクライナをはじめとする国際紛争等の相互関連するグローバル危機により、2030年までのSDGs達成は大きな危機に。緊急に救済（rescue）する努力が必要。
- コロナによる死者（直接の死因）は世界で540万人（2021年末時点、1500万人の死者超過）。
- コロナ以前と比べて2022年には7500～9500万人が新たに極度の貧困状態に。
  - 絶対的貧困率は上昇。10.1%(2015) - 8.6%(2018) - 8.3%(2019) - 9.2%(2020, 1998年以来初の上昇)
- 2020年には7億2000万人～8億1100万人が飢餓状態に。2019年から1億6100万人増加。
- 新たに1億人の子供が最低限の読解力その他の学力に不足。その結果、同世代の子供たちは合計17兆円の生涯収入損失。
- とりわけ失業、無報酬の育児や介護、家庭内暴力など、女性への影響大。
- 2021年には世界経済は回復を開始したものの、2021年末までに再びグローバル経済成長は鈍化。コロナの新たな株や不平等なワクチン普及、インフレ、サプライチェーン崩壊、政策的な不透明性、途上国における持続不可能な債務等の影響が大。
- 1945年以来最大の暴力紛争を経験、20億人が紛争の影響を受ける国に在住。ウクライナにおける戦争により、2022年のグローバル経済成長が0.9ポイント減少すると試算。
- 2021年には、石炭、石油、ガスへの需要増によりグローバルエネルギー関連CO2排出量は6.0%増加。
- 2021年には、推計1,700万トンのプラスチックが世界の海に。

国連事務総長  
SDGs報告書  
2022より





DISASTER-RELATED DEATHS **ROSE SIXFOLD** IN 2020



LARGELY AS A RESULT OF **THE PANDEMIC**



災害関連死6倍



**GENDER-RESPONSIVE BUDGETING**  
NEEDS TO BE STRENGTHENED

ジェンダー  
ベースの予算  
策定実施は  
26%のみ

ALLOCATIONS  
[2018-2021]



**26%** | COMPREHENSIVE SYSTEMS  
**59%** | SOME FEATURES OF A SYSTEM  
**15%** | LACKING MINIMUM ELEMENTS OF SUCH A SYSTEM

MEETING **DRINKING WATER, SANITATION AND HYGIENE** TARGETS  
BY 2030 REQUIRES A **4X** INCREASE IN THE PACE OF PROGRESS



SDGsターゲット達成には今の4倍  
の努力が必要

**1 IN 10** CHILDREN ARE ENGAGED

IN CHILD LABOUR WORLDWIDE



1億6千万人児童労働

**160 MILLION** TOTAL CHILDREN [2020]

**INTERNET**

UPTAKE **ACCELERATED**  
DURING THE PANDEMIC

% OF INDIVIDUALS USING  
THE INTERNET



**54%**  
2019

**63%**  
2021

インターネット利用者  
63%に増加

**CORRUPTION IS FOUND IN EVERY REGION**



ALMOST **1 IN 6** BUSINESSES HAVE RECEIVED BRIBE REQUESTS  
FROM **PUBLIC OFFICIALS**

6社に1社が公務員から  
のわいろ要求を受ける

**10 MILLION**



毎年1千万ヘクタールの  
森林喪失

**HECTARES OF FOREST** ARE DESTROYED EVERY YEAR

**EDUCATION IS A LIFELINE**  
FOR CHILDREN IN CRISES

MANY COUNTRIES ARE **IMPROVING** SCHOOL INFRASTRUCTURE AS CLASSROOMS REOPEN

GLOBALLY,  
**PRIMARY SCHOOLS**  
[2019-2020]



ELECTRICITY



DRINKING WATER



BASIC SANITATION



COMPUTERS



INTERNET ACCESS

多くの国でパンデミックを経て学校のインフラ改善

遠隔授業  
はウクライ  
ナの300  
万人の子  
どもたちへ



**REMOTE LEARNING**

IS OFFERED TO  
**3 MILLION**  
UKRAINIAN CHILDREN  
IN THE CHAOS OF WAR  
(APRIL 2022)

# 日本の弱みは社会・環境のサステナビリティと経済の統合

経済力だと...

<2020年>

順位	国名	単位: 百万US\$	注
1	米国	20,932,750	
2	中国	14,722,840	
3	日本	5,048,690	
4	ドイツ	3,805,010	
5	イギリス	2,710,970	
6	インド	2,708,770	
7	フランス	2,598,910	
8	イタリア	1,864,940	
9	カナダ	1,643,410	
10	韓国	1,630,870	

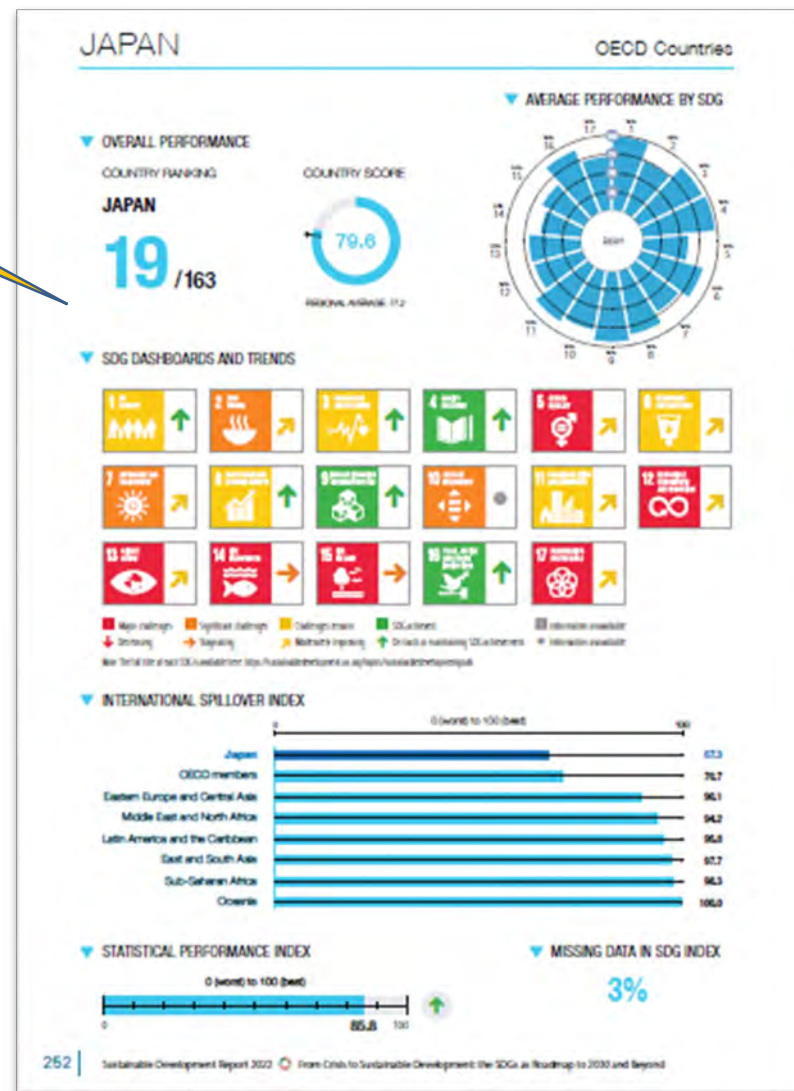
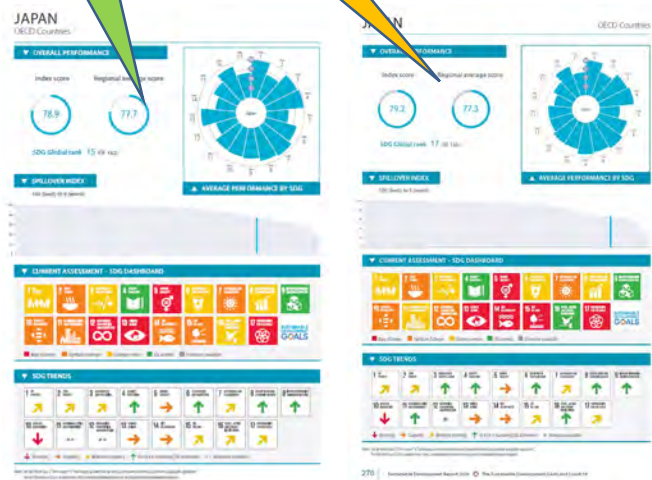
<https://dashboards.sdindex.org/profiles/japan>

2022  
19位

2019  
15位

2020  
17位

2021  
18位





# SDGsをめぐる日本政府の主なプロセス

## G7 伊勢志摩サミット

2016年

5月20日

総理を本部長、全閣僚を構成員とする **SDGs推進本部**を設置

9月12日

第1回**円卓会議**を開催

10月18日

実施指針の骨子を決定（推進本部幹事会決定）

12月22日

**実施指針を決定**（推進本部決定）

2017年

7月

国連ハイレベルポリティカルフォーラムにて日本レビュー発表

12月

第1回ジャパンSDGsアワード

「SDGsアクションプラン2018」発表

2019年

6月

「拡大版SDGsアクションプラン2019」

12月

第3回ジャパンSDGsアワード

円卓会議主催「実施指針改定へ向けたステークホルダー会議」

「SDGsアクションプラン2020」発表

SDGs実施指針改訂

## 国連SDGサミット(9月)

2021年

7月

国連ハイレベルポリティカルフォーラムにて日本レビュー発表

2022年

7月

「第1回SDGs実施指針改定へ向けたパートナーシップ会議」

10月

「第2回SDGs実施指針改定へ向けたパートナーシップ会議」

12月

提言提出（円卓会議→推進本部）

2023年

5月G7 9月国連SDGサミット・GSDR公表 12月実施指針改定？



- 6月と12月のSDGs推進本部開催（年2回）
- 円卓会議は2020年から分科会設置（進捗評価、環境、広報、教育の4分科会）
- SDGs実施指針改定へ向けた円卓会議主導の国民会議（2019、2022）
- アクションプラン（政策を集めたリスト）とアワード



# パートナーシップ会議

日本のターゲットを検討する

**□2023年国連SDGsサミット／実施指針改定へ  
向けた提言を検討する国民対話**

**□22年7月～年末のプロセスを経て政府に提言**

□日本のターゲットや目標（進捗管理方法や実施の仕組みも含む）を2022年末までに円卓会議から推進本部へ提案する

□第1回（7月27日）、第2回（10月24日）

□第1回と第2回の間の円卓会議外での様々な関連会議成果もインプット

# 3つのポイント

- SDGs推進基本法の制定が必要
  - 来年のG7、SDGsサミットへ向けたリーダーシップのカギ
  - 議員立法での制定。
  - 内閣府あるいは内閣官房に事務局を置いて定常的な政策実施が必要
- 日本のターゲット制定が必要
  - 2030アジェンダ（パラ55に明記）に誠実に応答する必要
  - 国としてのターゲット設定：ターゲットは、地球規模レベルでの目標を踏まえつつ、各国の置かれた状況を念頭に、各国政府が定めるものとなる。また、各々の政府は、これら高い目標を掲げるグローバルなターゲットを具体的な国家計画プロセスや政策、戦略に反映していくことが想定されている。（2030アジェンダ パラ55）
- SDGsの本質は成長戦略
  - ほんとうの訳は「持続的成長の将来像」
  - サステナビリティが国際競争力を決定：電気自動車、再エネ、人権デューデリジェンス・・・
  - 新たなコラボレーション（パートナーシップ）がビジネスチャンスに
  - 好事例のスケールアップは政策の仕事

# SDGs legislation in G7 and G20 countries

G7 Countries	Legislation	Basic plan
Canada	O	O
France	X	O
Germany	X	O
Italy	X	O
Japan	X	O
United Kingdom	X	X
(Wales)	O	O
USA	X	X
※EU	X	O

※2022.12.02

G20 Countries	Legislation	Basic plan
South Korea	O	O
China	X	O
Indonesia	X	O
Saudi Arabia	X	O
Argentina	X	X
Australia	X	X
Brazil	X	X
India	X	X
Mexico	X	X
Russia	X	X
South Africa	X	X
Turkey	X	X

# SDGs達成への取り組みと 消費と生産

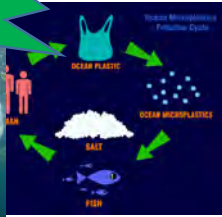
## 12.6

企業、特に大企業や多国籍企業に対し、持続可能な取り組みを導入し、持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう促す。



# ファッションxSDG…消費の在り方と生産の在り方は表裏一体

素材をどうするか



マイクロプラスチック問題

途上国での生産・販売（輸出）



大量廃棄

人権・女性・労働は？



先進国での生産・販売



人口増加

気候変動

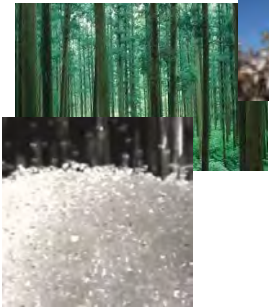
需要の増大

衣服の生産

資源効率性向上できるか

どこでなにを使って作るか

素材（化学繊維・オーガニックコットン）  
資源



経済成長



化石燃料エネルギーの大量利用、  
温室効果ガス排出



# ファッションxSDG

素材をどうするか

途上国での生産・販売（輸出）

マイクロプラスチック問題

人権・女性・労働は？

大量廃棄

気候変動

人口増加

先進国での生産・販売

需要の増大

衣服の生産

資源効率性向上できるか

どこでなにを使って作るか

素材（化学繊維・オーガニックコットン）  
資源

経済成長

化石燃料エネルギーの大量利用、  
温室効果ガス排出




# 建築プロセスにおける生産側・消費側対応とSDG17目標


計画プロセス・建設で実現可能


構法・設備で実現可能


プランニングで実現可能


プログラム・運用で実現可能


 ・生産 / 流通プロセスの可視化


 ・女性の参加


 ・建設時の雇用


 ・ワークショップなど地域住民と共に考える機会


 ・異なる専門家とのコラボレーション


 ・フェアトレード健在の活用  
・リユーズ／リノベーションの可能性を模索


 ・構法の可視化／建物への興味や理解  
・建設プロセスを利用した地域の巻き込み


 ・中水利用システムの導入、モデルケース  
・フィルター使用による浄水機能


 ・エネルギー消費を抑える建材の活用  
・太陽光パネルの設置  
・自然光を活かす


 ・新しい建設技術の開発／実験／支援（新築）  
・小さな単位のエネルギー循環（地域冷暖房システム、地域完結型エネルギー供給システム）  
・街を活気づける存在感


 ・環境負荷を抑えた設計  
・サステイナブルな建材の使用  
・運用まで一体で計画


 ・長寿命なデザイン、継続的なメンテナンス  
・サステイナブルな環境設備設計


 ・海上輸送を避け地域の建材を使用する  
・水を汚さない浄水機能


 ・木材の利用（フェアトレード／間伐材等）


 ・運動を促進する動線の設定

 ・女性用 / 男性用で明確にわけない（水回り・寮室）


 ・既存コンクリート造 / 増築木造による構成（改修）


 ・動線や各機能の積極的な可視化


 ・街に対して開かれた建物のあり方


 ・厨房と食堂をわけない  
・ゾーニング上のフレキシビリティを担保（寮の構成等）  
・SDGsを意識した内部のアクティビティを可視化


・外部空間の積極的な利用


 ・小さい単位のコミュニティ作り


 ・食料廃棄が出ない工夫  
・「作る」と「食べる」や「使う」の親密な関係作り  
・お酒や宗教上の「禁止」への向き合い方  
・食事の材料／メニュー／調理法の多様性


 ・地域×教育をテーマにラボの各機能を開放  
・ランニング、健康、SDGsについて知ってもらう場作り  
・多様な雇用の創出


 ・建物運用上での新たな雇用の創出  
・シェアの機会を提供することによるコミュニティの創出  
・時間別で空間を複数の機能でシェア


 ・宗教面での配慮


 ・街の交流拠点となるプログラム  
・公園との一体的な整備

 ・廃棄物への意識（コンポスト、プラゴミ無し）

 ・海洋汚染を避ける日用品

 ・近隣の森の管理  
・使い捨て製品を避ける

 ・交流拠点として地域の安全性に貢献  
・地域と協力する運営体制

 ・地域住民・学生を中心とした環境活動の拠点  
・様々な学生／研究者を受け入れるネットワーク的機能

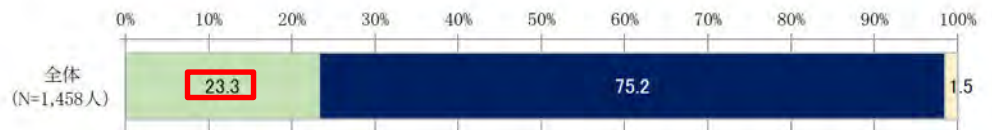


# コロナ禍関心の上がるエシカル消費

- コロナ前後でのエシカル消費への関心及び取組状況の変化について約4人に1人が「関心が高まった」、約5人に1人が「実践の機会が増えた」と回答

## ○意識調査結果(エシカル消費への関心の度合いの変化)

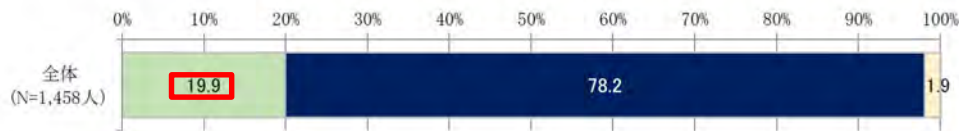
問4 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比較して、エシカル消費に関するあなたの関心の度合いの変化について、最も当てはまるものを1つ選んでください。



■ 感染拡大前と比較して関心が高まった ■ 感染拡大前後で変わらない □ 感染拡大前と比較して関心が低くなった

## ○意識調査結果(エシカル消費への取組状況の変化)

問5 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比較して、エシカル消費に関するあなたの取組状況の変化について、最も当てはまるものを1つ選んでください。



■ 感染拡大前と比較して実践の機会が増えた ■ 感染拡大前後で変わらない □ 感染拡大前と比較して実践の機会が減った

出典：「令和3年10月物価モニター調査結果（速報）」（2021年10月20日消費者庁公表）



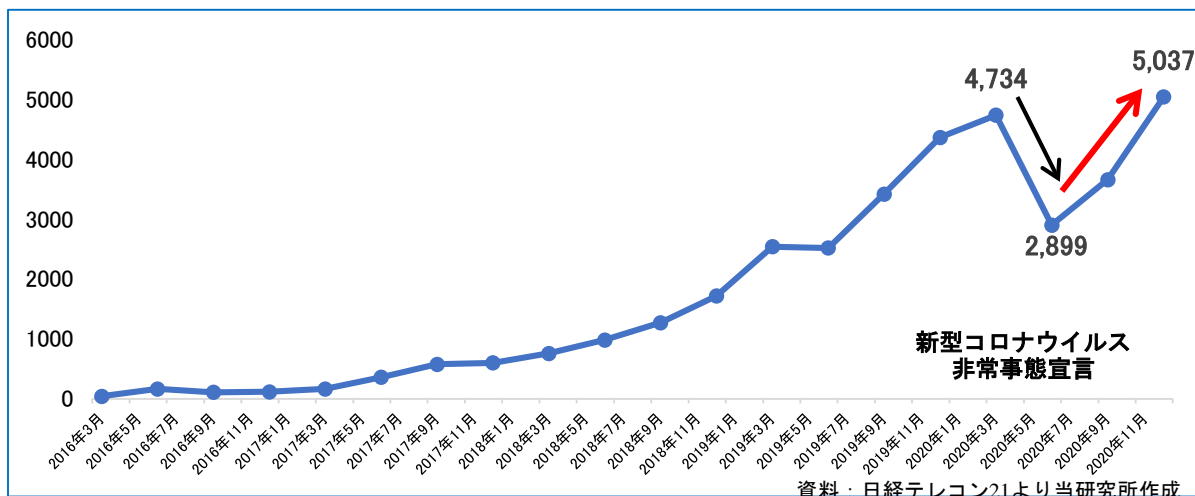
# コロナ禍でも堅調なESG投資

2020年のESG投資額は35兆3千億ドル（約3880兆円、18年の前回調査から**15%増**）

- 欧州 12兆170億ドル（約1320兆円、15%減） ← グリンウォッシュ回避のため基準強化
  - 運用資産全体の42%
- 米国 17兆810億ドル（約1880兆円、**42%増**)
  - 運用資産全体の33%
- 日本 2兆8740億ドル（約320兆円、**32%増**)
  - 運用資産全体の24%

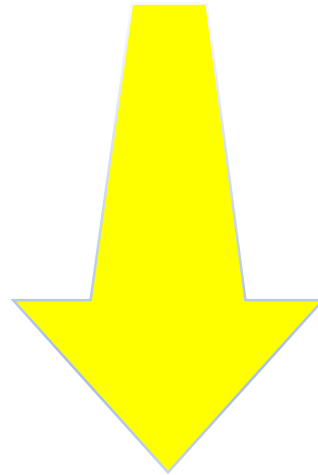
（世界持続可能投資連合（GSIA）2021）

[図表1]「SDGs」の新聞記事掲載件数推移



ESG投資→「今」を基準に考えたときの環境（E）・社会（S）・企業のガバナンス（G）を重視した投資

エシカル消費→「今」倫理的に正しいことを重視した消費



SDGs→「未来」のかたち  
世界で共有された未来のあり方を示したもの

# 消費者志向が生産も動かす力に

◆消費者がサステナブルに ⇔ 生産者が動かされる



b. green !!

◆ライフサイクルを通じたSDGsへの貢献



マットレスで考える		つくる責任		つかう責任	
① 原材料・製法		② 輸送・梱包		③ 使用期間	
 一般的なマットレス		 プラスチックゼロ スプリングゼロ 有毒ガスゼロ		 製品寿命＝買→買い替え・廃棄＝	
 代表的な芯材		 そのままの大きなサイズでお届け		 製品寿命＝買→買い替え・廃棄＝	
 一般的なマットレス		 そのままの大きなサイズでお届け		 製品寿命＝買→買い替え・廃棄＝	



# 来し方行く末を考えることで新たな価値を創造する【サプライチェーンで考える】

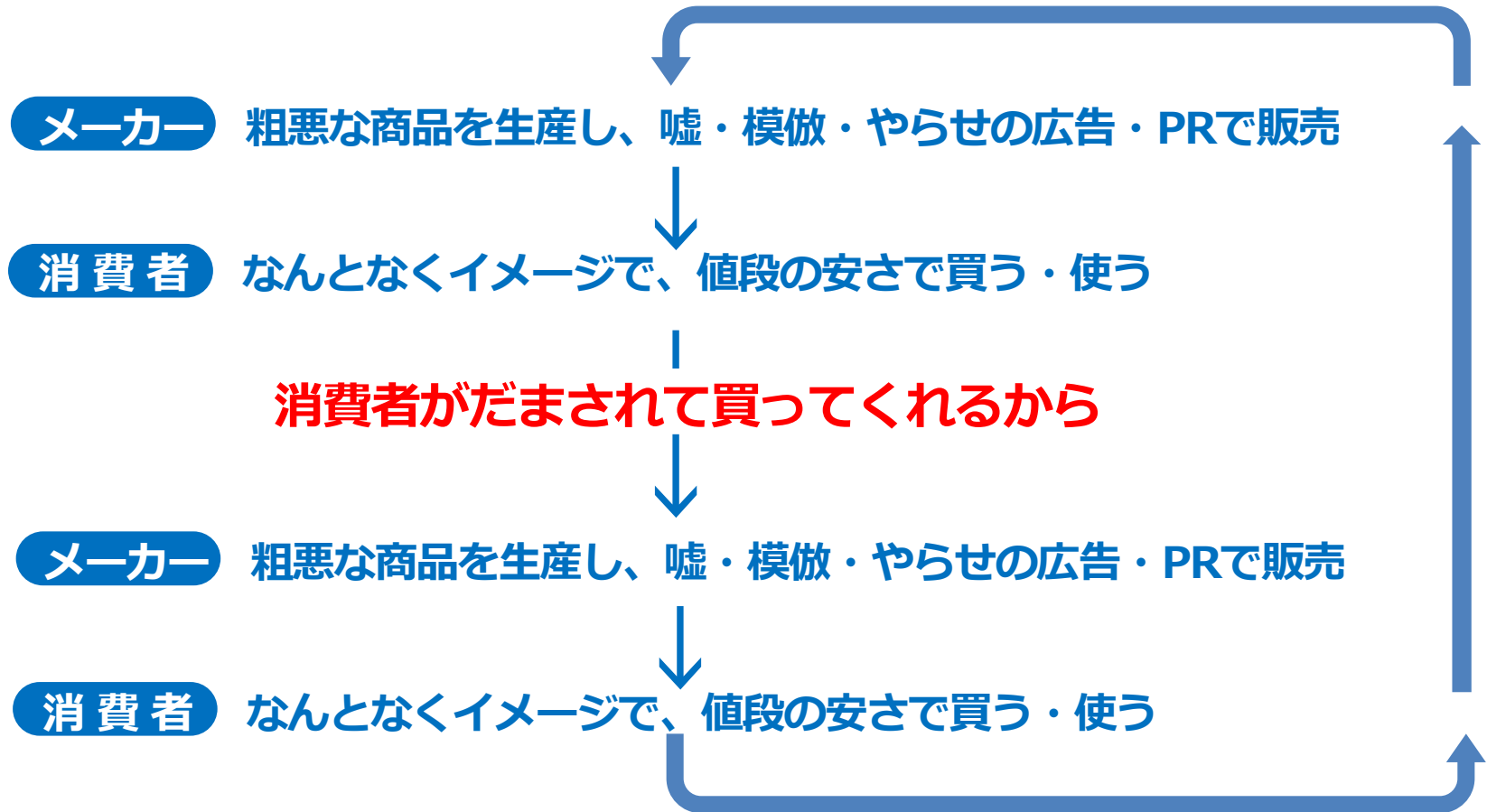
- ボルボのレザーフリーへの取り組み
  - 「高級」の意味の変換へ：再生プラスチックや菌糸によ繊維づくりへのチャレンジで「高級」車の創出へ
  - 2040年までに循環型に移行
  - 2025年までにサプライヤーに100%再エネ要求
- マニフレックスのマットレスづくり

マットレスで考える		つくる責任		つかう責任	
		① 原材料・製法	② 輸送・梱包	③ 使用期間	④ 廃棄
 magniflex マニフレックス		氷を凍らせて生成する 特殊開孔の高密度フォーム <b>エリオセル®</b> 人体にも地球環境にもやさしいエコ素材	 真空ロールパッケージにより 1/8に体積を圧縮して輸送可能 輸送コスト・温暖化ガスの排出=◎	購入 → 製品寿命=長 → 買い替え・廃棄=少 → 廃棄 10年保証 12年保証 15年保証 10年、12年、15年の長期保証 買い替える廃棄の頻度を減らせます	プラスチック ゼロ スプリング ゼロ 有毒ガス ゼロ
		代表的な芯材 プラスチックファイバー素材 コイルスプリング素材 低反発素材	 そのままの大きなサイズでお届け 輸送コスト・温暖化ガスの排出=◎	製品寿命=短 → 買い替え・廃棄=多 → 廃棄 購入 → 製品寿命 → 購入 → 製品寿命 → 購入 → 製品寿命 → 廃棄	プラスチックファイバー 海洋プラスチック問題 コイルスプリング 粗大ごみ問題 低反発素材 大気汚染問題





- ・なんとなくイメージで選ぶ
- ・値段が安いから選ぶ



Marketing and Sales dep.

**メーカー** 粗悪な商品を生産し、嘘・模倣・やらせの広告・PRで販売



消費者が知識を身に付けて、正しい商品を選ぶようになれば・・・

**消費者** 安全な原材料・製法か、長期間使えるか、捨てる時にゴミを出さないか

**メーカー** 商品を作っても売れない

**メーカー** 倒産・廃業へ


**エシカル消費**  
(倫理的・道徳的な消費)

 **SDGs**  
【今後の重要なキーワード】

Marketing and Sales dep.

# デューデリジェンス:どこでどうつくられてどう運ばれてきたのかを明らかにする

- 企業価値やリスクの把握 ← 非財務情報や企業統治のあり方は投資の世界でも重要
- デューデリジェンス実施を海外にも広げることで、雇用創出や経済効果も



**サステナブルな木のフローリング**

1階に使用したチークの無垢フローリング(マルホン)は、外国産ですが、サステナブルな植林材(接ぎ木)です。木そのままの無垢材なので傷も味になり、時が経つほどに味が出て、長く使えるのもサステナブルなポイント。2階で使用した無垢フローリングは、国産でFSC®認証を得ている尾鷲ヒノキ(マルホン/速水林業)です。

独自のDD(デュー・デリジェンス)プログラムを策定

**Step 1. 情報収集(定性情報、書類確認)**


**Step 2. 合法性に係るリスク評価**  
(認証の有無・有効性・SC、樹種・原産国の政治状況等)

低リスク → ○調達可能

低リスクではない → **Step 3. 高リスク項目の詳細調査**

リスクを排除できた → Step 2

リスクを排除できない → ×調達不可能



27

# どこでどのようにつくられたか（食品の例）

2.4：2030年までに、持続可能な食料生産システムを確立し、レジリエントな農業を実践する。そのような農業は、生産性の向上や生産量の増大、生態系の維持につながり、気候変動や異常気象、干ばつ、洪水やその他の災害への適応能力を向上させ、着実に土地と土壌の質を改善する。

8.5：2030年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）を実現し、同一労働同一賃金を達成する。

8.7：強制労働を完全になくし、現代的奴隷制と人身売買を終わらせ、子ども兵士の募集・使用を含めた、最悪な形態の児童労働を確実に禁止・撤廃するための効果的な措置をただちに実施し、2025年までにあらゆる形態の児童労働をなくす。

11.4：世界の文化遺産・自然遺産を保護・保全する取り組みを強化する。

素材が何か  
どのような労働環境でつくられたか